

## 起業家的能力

取締役調査第二部長 都 俊生

料理に添えられる「つま物」の葉っぱや野花を「<sup>いろどり</sup>彩」のブランドで出荷し、全国にその名前を知られるようになった徳島県上勝町を視察する機会を得た。林野比率が 85.4%、65 歳以上の人々が 48.5% を占める高齢社会のこの町で「<sup>いろどり</sup>彩事業」を支えるのはおばあちゃん達である。訪問した農家では 80 歳を超えるおばあちゃんが、もみじの葉やアジサイの花などを山や畑から集め、手際よくきれいに整えていた。パソコンを開いて出荷実績のチェックもする。頭の回転もいい。とにかく元気だ。おばあちゃん達の屈託のない笑顔が印象的であった。

「頑張れる仕事があること、安定した収入が得られること、そして仕事を通じて社会とつながっていることが心にも張りを持たせ心身ともに健康にさせている」と、この事業を立ち上げた「(株)いろどり」代表取締役の横石氏は語る。まさにそのとおりだと思う。何かと高齢社会を悲観的に捉える見方が世の中に蔓延している感があるが、生きがいを持って健康で長生きできる社会づくりの大切さに改めて気づかされた思いだ。

昨今、しきりに地方の自立が叫ばれているが、それは単に行政に依存するだけでは解決できない課題だ。元気な地域づくりには、この上勝町のように「やりがい」のある事業を生み出していくことが欠かせない。「生きがい」や「やりがい」のある仕事を開発し元気な社会を作るのは我々民間の仕事だ。そのためには「価値ある資源」を見出す能力とそれを事業につなげる起業家的能力が求められる。資源の価値を発見するには、地域外の人々の目も必要だ。横石氏が事業のヒントを得たのは、大阪の寿司店で「つま」に使われた葉っぱの美しさに感激する女性客の会話であったし、「つま物」を商品化する過程では横石氏自身が足繁く大阪の料亭などに通い情報収集をしている。また、資源とは単に「物」だけではない。人材も資源のひとつだ。上勝町の資源は、豊かな森林資源だけでなく、お年寄りの持っている草木に対する知識や、「つま物」を丁寧に揃える手先の器用さも大切な資源であった。

事業展開にも工夫がある。「<sup>いろどり</sup>彩事業」を少数の農業者だけで囲い込むのではなく会員方式をとり地域全体に広げている。この事業に参加している農業者は 190 人に上り、その結果 320 品目を出荷できる体制ができ上がっている。JA を通じて市場へ共同出荷しているが、出荷物には出荷者別の ID 番号が付けられており市場での評価が出荷者ごとにはね返る仕組みになっている。出荷者別の販売実績と順位を PC ネットワーク上で公開もしている。これが、会員の品質向上意欲や競争心をかきたてる効果をもたらしている。このように諸要素をうまく噛み合わせ事業を築き上げたところに上勝町の「<sup>いろどり</sup>彩事業」の成功があるように思う。

地域社会活性化には、既成概念にとらわれない起業家的能力が大切だとつくづく感じた次第である。新しい感覚を持って地域資源の価値を再発見する努力が肝心だ。そのためにも、都市と地方との人的交流が望まれる。